

C 177 季節料理と行事料理に関する調査(第2報)

大手前女子短期大学 ○水野明子 浦畑育生 藤田和子 金倉緑 橋本美
加 村上紀子 香月文子

目的 前報では、女子学生の家庭において季節料理、惣菜料理、行事料理の摂取状況を調査し、家族構成、世帯主の職業、母親の年齢との関連を調べた。

本報では、最近急増したレトルト食品、半調理品、出来上り惣菜が季節料理、惣菜料理、行事料理などにどのように利用されているかを調べた。

方法 1991年7月に本学学生218名を対象に、配票調査を行った。集計処理は、大阪大学大型計算機センターSPSSX、リリース2.202を用いて行った。

結果 料理作りへの興味の有無と惣菜料理との関連では、料理好きな人は、ほとんど素材から手作りが多いが調理時間が長くかかり、市販品より、上手に出来ないものは、買っただけで食べられていた。

家族構成とのクロス分析の結果は、惣菜料理では魚及びハンバーグステーキ等が、同居家族に手作りでも多く食べられていた。

世帯主の職業別では、鱸・鯖塩焼き、天ぷら、豚肉しょうが焼き等に、有意差が認められた。